

拝啓 今年も早や歳末となりました。いつもエンカウンターをお読み頂きありがとうございます。毎月忙しく過ごしているうちに、もうはや年末になってしまったという感じです。近所の公園では、落ち葉がきれいな枯葉模様を作っております。

今回は、小西芳之助先生の『わが主イエスよ—恵心流キリスト教・説教集—』の13回目で、「第14講 忘れ得ぬ内村鑑三先生の言葉」よりの紹介ですが、11ページ「キリスト教のうちに、仏教、儒教、神道の粹」という項には、次のように書かれています。

「内村先生から聞いた言葉として、「キリスト教は神の教えであり、キリストの内には仏教の粹も、儒教の粹も、日本の神道の粹も全部、真なるものの粹はキリスト教に含まれている」と言った。…私はこの頃、仏教浄土門とキリスト教は一つに見える。そうですから、無理にキリスト教だけやる必要はない。キリスト教をやりながら仏教をやりたまえ。仏教浄土門を勉強したらよろしい。どれでも自分の好きなものをやったらよろしい。私はこの頃ひとつに見える。ピタッと一つに見える。」とありますが、年を取ると、他の宗教に寛大となり、特に仏教に対する同情、親しみが深まる人が多くなるように思います。

12月2日(月)には、夏の坂道シンポジウムを学士会館で開催しました。月曜日の午後でしたため、参加者は、いつものシンポジウムの半分ぐらいでしたが、分かりやすい良いシンポジウムでした。講演が苦手な作者の村木嵐さんも、宇野重規東大教授との対談では、流ちょうに答えておられました。終わった後、樋野興夫先生が、今度は、「夏の坂道」をNHKの大河ドラマにしようという提案をされました。実現するかしないかは別としても、そういう大きな目標をもって働きかけをすることは愉快なことだと思います。

12月5日、ドイツのデ・リッターさんの本を出版しようとしている島田宗洋さんと共に、教文館の渡部社長と会い、出版をお願いしました。私も、小西芳之助先生の伝記の出版について、お願いしました。ご返事があり、自費出版としてなら教文館で出版してもよいという返事でしたので、たぶんお願いすることになると思います。

12月12日、クリスチャンアカデミーのキリスト教史講演会で、講師の戒能信生牧師から、隅谷三喜男先生の話をお聞きしました。戒能先生(千代田教会牧師)はいつも実に分かりやすい話をされる先生で、こんな素晴らしい話を聴けてうれしくなりました。

12月20、21日と一泊で、三浦半島に出かけました。20日は、横須賀の観音崎の横須賀美術館を訪ね、浦賀水道を通る船を眺めながら昼食を取り、付近の海岸を散歩し、夜は三浦海岸駅近くにあるまほろばマイنزという巨大ホテルに泊まりました。21日は、城ヶ島にでかけ、北原白秋の「城ヶ島の雨」の大きな歌碑を見た後、島を一周しましたが寒くなくよいハイキングができました。この小旅行の趣旨は、ニューヨーク在住の次男一家3人が我が家に5カ月滞在し帰りましたので、妻を慰労するのが趣旨でした。

今年も残り少なくなってきましたが、あわただしい年の暮れを過ごし、正月を迎えることとなりますが、皆さまも、お身体ご自愛され、よいお年をお迎えください。

12月24日

山口周三

エンカウンターのご読者各位